

## 令和4年度 生産者手取り最大化実践メニューのご紹介

JAと全農にいがたでは、担い手の皆様の経営改善と手取り最大化をめざし、様々な実践メニューをご提案しています。

実践メニューは、物財費削減・労働費削減・生産性向上の3つに分類されており全36メニューがあります。

令和3年度は、全34メニューから1JA平均21メニューに取り組みました。本年度についても内容を確認いただき、引き続き実践いただくようお願いします。

なお各メニューの詳細は、[JA全農にいがたHP](#) > [営農・組合員](#) > [令和4年度 生産者手取り最大化実践メニュー](#) をご覧ください。

(詳しくは、お近くのJAにお問い合わせください)

### 令和4年度 生産者手取り最大化実践メニュー一覧

(※)：新規追加

項番	物財費削減
1. 肥料・農業費の低減	
1	水稲用JA県下統一肥料の活用
2	一般高度化成肥料(銘柄集約)の活用
3	肥料・農業の直送対策の活用
4	密フレコン規格肥料の取り扱い
5	担い手直送規格農業の活用
6	施肥コスト低減技術・資材の活用 (※)
2. 機械費の低減	
7	「JAグループ共同購入」トラクターの導入
8	園芸振興貸出し農業機械の活用
3. 段ボール資材価格の引き下げ	
9	全国標準規格段ボール箱への集約

項番	労働費低減
1. 育苗・直播技術	
10	水稲高密度播種の導入
11	水稲直播栽培(鉄コーティング等)の導入
2. 施肥の省力化	
12	肥効調節型肥料入り銘柄の活用
13	苗箱まかせ(水稲育苗箱全量施肥)の活用
14	水稲流し込み施肥の導入
15	ドローンによる水稲施肥
3. 除草の省力化	
16	拡散性粒剤による防除
4. 園芸の省力化	
17	野菜収穫機の導入
18	生分解性マルチの導入
5. 水管理の省力化	
19	自動給排水装置の導入
6. 米の出荷作業の軽減	
20	米のフレコン出荷の拡大

項番	生産性向上
1. 収量品質向上・需要確保	
21	土づくり肥料の施用
22	密オーダーメイドBB肥料の活用
23	指定混合肥料(堆肥入り)の活用 (※)
24	水稲多収性品種の取り組み
25	大豆の生産性向上
26	大豆の生産拡大 (※)
2. 園芸の新規導入・拡大	
27	園芸品目の生産拡大
28	加工・業務用向け野菜の生産
29	養液土耕栽培システムの導入
3. 営農排(かん)水の改善	
30	地下水水位制御システム「FOEAS」の導入
31	農業機械の活用による「土づくり」
4. ICT等による生産の効率化	
32	営農管理システム(Z-GIS)の導入
33	営農計画策定支援システム(Z-BFM)の活用
34	栽培管理支援システム「ザルピオ」の導入 (※)
35	ドローンの活用
36	GPSを活用した農業機械の導入

こちらから、メニューの詳細をご覧ください。



(担い手・営農支援部 担い手・営農支援課)

※掲載内容の無断使用・転載を禁じます。